

4S-7

WWWを利用した 新しい性格検査法の作成とその評価*

辻 齊†

京都大学情報処理教育センター‡

1. はじめに*

質問紙法による性格検査は就職試験、運転免許の更新時などの機会に広く行われている。従来の紙と鉛筆による質問紙性格検査を実施する場合、検査結果を直ちに被験者にフィードバックできない、被験者の回答を何らかの方法で計算機可読形式にしてから分析する必要があるなどの問題がある。WWWを使うことによって、これらの問題は解決される。しかし、従来の紙と鉛筆の形式とWWWの形式で、被験者の回答に差がないという保証はない。本研究では、世界的に広く用いられている5因子性格検査を用いて、WWWを用いた性格検査法を従来の方法と比較検討する。

2. 5因子性格検査 FFPQ

Norman[1] や Goldber[2] の5因子モデルは、こころを5つのものさし(特性)でおおまかに測定しようとする試みである。5因子性格検査 FFPQ[3] は、このモデルに立脚し、5つの超特性からなる。超特性はさらに5つの下位特性にわかれる。

さらに FFPQ は価値中立の検査として作成された。日本の代表的な性格検査の YG 性格検査では「ブラックリスト型」などという判定ができることもある。試験実施者からの適切なフィードバックが期待できるのなら、価値中立でなくても構わないが、WWWを用いる場合は価値中立な性格検査が望ましい。

3. 方法

女子大学の心理学専攻の3年生47人を被験者とした。被験者の半数は、まずWWW形式のFFPQを実施し、1週間後に紙と鉛筆形式のFFPQを実施した。残りの半数は実施順序を入れ替えた。

4. 結果

● 再検査信頼性

WWW形式と紙と鉛筆の形式のFFPQの各尺度毎の相関係数を表1に示す。衝動-自己統制が $r = 0.58$ 、競争-協調が $r = 0.67$ で比較的相関係数が低いが、それ以外は説明率が5割以上の高い相関を示した。FFPQの下位尺度得点から見ると、WWW形式と紙と鉛筆の形式では、大きな差異はない。今後、WWW形式同士の再検査信頼性、紙と鉛筆の形式同士の再検査信頼性も調べる必要がある。

● 因子分析

WWW形式と紙と鉛筆の形式のFFPQを繰り返しとみなして因子分析した結果を表1に示す。FFPQ[3]の標準化の際の分析と比較すると超特性のまとまりは悪いが、ほぼ予想された因子にわかれている。

● 記入漏れの比較

紙と鉛筆の形式では、FFPQの150問のうち、平均0.06個所の記入漏れがあった。ところがWWW形式では、これが0.43個所になった。これは $t = 2.40, df = 46$ で危険率5%以下で有意である。WWW形式のほうが紙と鉛筆の形式に比べて記入漏れが多いといえる。今回は形式の比較が目的であるので、WWW形式でも特に記入漏れのチェックはしなかったが、スクリプトを書けば簡単にチェックできる。

*Five Factor Personality Questionnaire by World Wide Web

†Hitoshi TSUJI, tsuji@kuec.kyoto-u.ac.jp

‡Educational Center for Information Processing, Kyoto University

表 1: 5 因子性格検査の再検査信頼性と因子分析

超特性と 下位特性	再検査信頼性 (相関係数)	第一因子	第二因子	第三因子	第四因子	第五因子
<u>内向性-外向性</u>						
非活動-活動	0.81	-0.26	0.06	0.40	0.36	0.10
服従-支配	0.93	-0.09	-0.10	0.21	0.63	0.22
独居-群居	0.83	0.22	-0.07	0.73	0.08	0.11
興奮忌避-興奮追求	0.87	0.01	-0.16	0.66	-0.20	0.33
注意回避-注意獲得	0.88	-0.00	-0.18	0.55	0.35	0.18
<u>分離性-愛着性</u>						
冷淡-温厚	0.83	0.69	0.01	0.10	0.14	0.00
競争-協調	0.67	0.64	-0.22	0.10	0.12	-0.21
警戒-信頼	0.84	0.38	-0.08	0.57	0.13	0.00
非共感-共感	0.84	0.64	0.02	0.27	0.41	0.21
自己尊重-他者尊重	0.71	0.80	-0.14	0.08	-0.06	0.26
<u>非統制性-統制性</u>						
大まか-几帳面	0.90	0.57	-0.14	0.15	0.54	-0.13
無執着-執着	0.81	0.38	-0.02	-0.07	0.62	0.06
無責任-責任感	0.87	0.30	-0.05	0.08	0.74	0.05
衝動-自己統制	0.58	0.32	-0.48	-0.04	0.24	-0.17
無計画-計画	0.75	0.07	-0.05	0.04	0.74	-0.16
<u>非情動性-情動性</u>						
のんき-心配性	0.89	0.09	0.87	-0.28	0.07	-0.13
弛緩-緊張	0.90	0.08	0.68	-0.12	-0.04	-0.09
非抑鬱-抑鬱	0.87	-0.27	0.64	-0.60	-0.13	0.02
自己受容-自己批判	0.90	-0.20	0.44	-0.54	-0.30	0.09
気分安定-気分変動	0.87	-0.24	0.71	0.05	-0.11	0.03
<u>現実性-遊戯性</u>						
保守-進取	0.76	-0.03	-0.15	0.29	0.10	0.69
実際-空想	0.88	-0.08	0.39	-0.28	0.04	0.23
芸術への無関心-関心	0.89	0.30	-0.05	0.09	0.03	0.81
内的鈍感-内的敏感	0.78	0.34	0.28	0.16	-0.01	0.49
堅実-奔放	0.85	-0.25	0.10	-0.02	0.01	0.73

5. おわりに

FFPQ を用いて、紙と鉛筆による質問紙性格検査形式と WWW の形式の比較をした。WWW 形式のほうが記入漏れが多かった以外に大きな差異は認められなかった。WWW を用いた質問紙性格検査には、わざわざ被験者を集めなくても済むという特徴もあるが、調査対象の母集団について十分に考慮する必要がある。

6. 参考文献

- [1] Norman, W.T. Toward an adequate taxonomy of personality attributes. *Journal of Abnormal and Social Psychology*, 66, 574-583, 1963.
- [2] Goldberg, L.R. Language and individual differences. In L. Wheeler (Ed.), *Review of personality and social psychology*. Vol.2(pp.141-165) Beverly Hills, CA: Sage. 1981.
- [3] 辻平治郎、藤島寛、辻齊ら、パーソナリティの特性論と 5 因子モデル、心理学評論 (印刷中)